

# 知って安心! がん医療

## ～診断と治療をわかりやすく～

Vol.4

第14弾

県立静岡がんセンター公開講座2017「知って安心! がん医療～診断と治療をわかりやすく～」(静岡新聞社・静岡放送主催、県立静岡がんセンター、三島市、長泉町、裾野市、函南町、清水町、三島市民文化会館共催、スルガ銀行特別協賛)の第4回(全7回シリーズ)がこのほど、三島市民文化会館で開かれました。大出泰久呼吸器外科部長、平嶋泰之婦人科部長が、それぞれ講演しました。その概要を紹介します。

〈企画・制作/静岡新聞社営業局〉

主催/静岡新聞社・静岡放送 特別協賛/スルガ銀行

共催/静岡県立静岡がんセンター、三島市、長泉町、裾野市、函南町、清水町、三島市民文化会館

## 子宮がんの治療



県立静岡がんセンター

婦人科部長

ひらしま やすゆき

平嶋 泰之 氏

1986年三重大医学部卒。同年浜松医科大学産婦人科入局。静岡医療センター、浜松医科大学産婦人科勤務後、2002年静岡がんセンター婦人科部長。08年婦人科部長。医学博士。日本産科婦人科学会専門医、代議員。日本婦人科腫瘍学会専門医、理事。日本癌(がん)治療学会代議員、プログラム委員。癌治療認定医。沼津市出身。

子宮がんには子宮頸(けい)がんと子宮体がんの2種類があり、それぞれ性格が異なります。まずは子宮頸がんですが、罹患(りかん)者のピークは30代後半で、年間1万人、1万2000人が発症し、3000人、4000人が亡くなっています。近年は20代、30代の患者さんが急増しています。生命が脅かされるだけでなく、子宮摘出や放射線治療で子どもが産めなくなる可能性もあり、次世代にも影響を与えるがんです。

### 次世代に影響するがん

子宮頸がんは早期発見、早期治療が決め手です。先進国での子宮頸がん検診の平均受診率が60%、80%に対し、日本はわずか20%です。初期ならば、ほぼ治療できるため、20歳を超えたら最低2年に一度は受診してください。

### 低い日本の検診率

子宮頸がんは早期発見、早期治療が決め手です。先進国での子宮頸がん検診の平均受診率が60%、80%に対し、日本はわずか20%です。初期ならば、ほぼ治療できるため、20歳を超えたら最低2年に一度は受診してください。

子宮体がんは早期発見、早期治療が決め手です。先進国での子宮体がん検診の平均受診率が60%、80%に対し、日本はわずか20%です。初期ならば、ほぼ治療できるため、20歳を超えたら最低2年に一度は受診してください。

子宮体がんは早期発見、早期治療が決め手です。先進国での子宮体がん検診の平均受診率が60%、80%に対し、日本はわずか20%です。初期ならば、ほぼ治療できるため、20歳を超えたら最低2年に一度は受診してください。

子宮体がんは早期発見、早期治療が決め手です。先進国での子宮体がん検診の平均受診率が60%、80%に対し、日本はわずか20%です。初期ならば、ほぼ治療できるため、20歳を超えたら最低2年に一度は受診してください。

## 肺がんの外科治療



県立静岡がんセンター

呼吸器外科部長

おおで やすひさ

大出 泰久 氏

1993年浜松医科大学医学部卒。同大第一外科勤務。96年国立がん研究センター東病院レジデント。2002年静岡がんセンター呼吸器外科勤務。12年より呼吸器外科部長。呼吸器外科専門医。がん治療認定医。日本外科学会指導医、日本呼吸器内視鏡学会指導医、日本呼吸器外科学会評議員、日本肺癌(がん)学会評議員、日本胸部外科学会評議員などを務める。浜松市出身。

### 非喫煙者でも肺がん

昨年1年間でがんを発症した人は全国に100万人以上います。肺がんの罹患(りかん)者数は男女とも第3位ですが、年間に肺がんで亡くなる患者さんは7万7000人以上と全てのがんの中でトップです。

### 肺がんの外科治療

肺がんは早期では症状が出にくく、他のがんより、進行した状況で見つかることが多いこと、進行がんは治しにくいことがその理由と考えられます。

### 肺がんの治療方法

肺がんは早期では症状が出にくく、他のがんより、進行した状況で見つかることが多いこと、進行がんは治しにくいことがその理由と考えられます。

肺がんは早期では症状が出にくく、他のがんより、進行した状況で見つかることが多いこと、進行がんは治しにくいことがその理由と考えられます。

肺がんは早期では症状が出にくく、他のがんより、進行した状況で見つかることが多いこと、進行がんは治しにくいことがその理由と考えられます。

肺がんは早期では症状が出にくく、他のがんより、進行した状況で見つかることが多いこと、進行がんは治しにくいことがその理由と考えられます。

肺がんは早期では症状が出にくく、他のがんより、進行した状況で見つかることが多いこと、進行がんは治しにくいことがその理由と考えられます。

肺がんは早期では症状が出にくく、他のがんより、進行した状況で見つかることが多いこと、進行がんは治しにくいことがその理由と考えられます。

### 質疑応答

会場では講師と参加者との間で質疑応答が行われました。その一部を紹介いたします。

Q 最近、電子たばこが、はやっています。受動喫煙が心配です。

A 燃焼しているわけではないので、受動喫煙のリスクはほとんど気にしなくても大丈夫です。ただし、たばこの成分は入っているため100%安全というわけではありません。

Q 子宮頸がんも子宮体がんも、症状の一つに不正性器出血があると聞きます。それぞれ不正性器出血の特徴があれば、教えてください。

A 子宮頸がんでは性行為後の出血が非常に特徴的です。子宮頸部が刺激された後、出血する場合、つまり性行為後の出血は子宮頸がんが強く疑われます。一方、子宮体がんの場合は必ずしも、そのような特徴はありません。ただ、子宮体がんの発症好発年齢が50代、閉経前後ですから、その年代で不正性器出血がある場合は、より子宮体がんを疑う、と考えてよいかと思えます。